



飛 FLYING DRAGON 龍

日本香港協会ニュース No.55



「九龍から見た香港島セントラル地区」香港貿易發展局提供

「香港特別行政区」設立10周年を目前にして

1974年11月から変動相場制を採用して来た香港ドルは、香港返還交渉が中英間で難航しているという事実を受け、1983年9月22日のUS\$1.00=HK\$8.25から翌23日にはUS\$1.00=HK\$9.60(日中最安値)へと暴落。24日の日曜日には香港のスーパーマーケットから輸入日用雑貨が姿を消す事態が発生しました。大坑道(Tai Hang Road)のガソリンスタンドに隣接するスーパーマーケットへ行くと実際に輸入日用雑貨の棚が閑散としていました。「香港はどうなるのか?」と不安な気持ちが心を横切りました。これは筆者だけでなく、多くの香港人に共通した不安であったと思います。

かかる事態を重視した香港政庁は1983年10月16日、US\$1.00=HK\$7.80に固定する“Linked Exchange System”を採用し、金融危機を乗り越えました。しかし、この香港ドル暴落の結果、中英交渉は「香港の返還」に向けて大きく動き出すこととなりました。そして1997年7月1日午前零時、香港会議展覽中心で返還式典が挙行され、1842年の「南京条約」で英国に割譲

された香港島を含む「英国植民地香港」が長い歳月と折衝の末、中国へ返還されました。ちなみに、「返還」とは英国の立場からの表現で、香港では「回歸(歸は帰の繁体字)=復帰する」、中国では「回収=取り戻す」と表現していました。

今年7月、香港は一国二制度に基づく「特別行政区」となって10周年を迎えます。この期間を香港ドルと人民元という通貨を軸として振り返ってみましょう。「香港返還」の翌日、タイバーツの暴落に端を発する「アジア通貨危機」が発生、またたくまにアジア諸国を巻き込んで行きました。香港ドルも7月から10月にかけて投機筋の攻撃を受けましたが曾蔭權(Donald Tsang)財政長官の采配の下、香港金融管理局は“Linked Exchange System”の維持に成功。この成功要因の一つに、“Linked Exchange System”が所謂一般的な「ペッグ制度」と異なり、香港ドルが100%米ドルの裏付けで発行されていることがあります。一方、人民元は管理された変動相場制を採用し、資本取引は自由化され

目次

2007年4月発行

「香港特別行政区」設立10周年を目前にして	1・2
香港で生産を続けて20年	3
2007年度冒頭を飾る総合イベントを開催	4・5
平成19年度年次総会も無事終了	5
香港フォーラム見聞記～番外編～	6・7
珠海・マカオ投資環境紹介及び国際経済貿易交流会	7
支部便り 関西	
関西日本香港協会 チャイニーズ・ニュー・イヤーパーティー2007	8
関西日本香港協会 文化部主催クリスマスパーティー	9
フォーラム余談	9
支部便り 中京	
2007年新春・総会・パーティーを顧みて	10

支部便り 福岡	
最近の福岡支部活動状況報告	11
支部便り 北海道	
「香港のつどい2007」開催	12
支部便り 宮城	
活発な立上りが期待される東北の拠点	13
2007/08 JAPAN 香港貿易發展局主催・参加 展示会及びミッション	14
香港特別行政区政府設立10周年記念	
特別シンポジウムのご案内	14
九龍城で見つけた潮州料理の百花繚乱	
第四回 素人的香港食いだおれ事情	15・16
2006年度香港工商業界の生産性及び品質の両大賞を獲得!	16



「湾仔 (Wanchai) の高層ビル群と立体交差する道路」
(車は中国と異なり、左側通行) 香港貿易発展局提供

ていないため「アジア通貨危機」が中国に波及することはありませんでした。

1997年の名目GDP(現地通貨建て)を見ると、中国は7兆8,973億元、香港は1兆3,445億香港ドルであったのが、2006年の速報値では、中国が20兆9,407億元、香港が1兆4,723億香港ドルへと増加しました。特に、中国は安価で勤勉な労働力の提供と外資優遇策により海外からの直接投資を大量に呼び込み、世界の工場と言われるまでになり、それが所得の増大効果を生み、今やマーケットとしての中国と言われ、世界中の企業が中国市場で販売競争を展開する様相を呈しはじめました。

それに対し、香港は人件費と工場・ビルの賃借料の高騰で生産拠点としてのメリットが薄れ、多くの工場が中国本土へと移転したのを機に、2つのIPO市場としてその姿を変貌させて来ました。1つは“International Procurement Office”(部材の調達市場として世界中からの部材を安く・迅速に・正確に供給する拠点)、もう1つは“Initial Public Offering”(新規株式公開市場としての拠点；2006年1月～12月のIPO調達ランキングでは香港が世界第一、第二位はNY、第三位はLondon)です。最近では、2つのIPO市場に加えて「地域統括本部」を設立する動きも活発化し、2006年6月では香港に1,228の地域統括本部が設立されていると「通商弘報」(2006年10月12日)が伝えています。この背景には「香港の経済自由度」が13年連続で世界第一にランクされている事実があります。中国と香港が別々の道を歩んだ結果、中国では貿易収支の黒字を主たる要因として外貨準備高が増加し、今や日本をも凌駕して世界第一位の外貨準備を保有する国となりま

した。ヤミでキャリートレードを大量に行っていたため、中国の国際収支統計に巨額の「誤差脱漏」が計上されていました。しかし国家外貨管理局の主導のもと、資本勘定の出入りを厳しくチェックすることにより、「誤差脱漏」も減少することが期待されています。

最新のニュースでは、「国家外貨管理局発表の米ドル対人民元為替レートは、2007年1月11日に7.7977となり、香港ドルが1983年以来米ドルとの連動相場制(ペッグ制)を維持してきたHK\$/US\$ = 7.8のレベルより人民元が高くなりました。曾蔭権 (Donald Tsang) 行政長官は昨年11月に『人民元の兌換性が実現し、なおかつ(一国二制度の保証期間が終わる)2047年以降にならない限り、現行ペッグ制に変更はない』と語りました。一方で、『香港ドルの存在感低下は避けられない』『市場では香港と中国との経済一体化に伴い人民元とのペッグ制に移るとの観測もある』と報道しているものもありました(2007年1月12日の日本経済新聞の報道)。香港では、BIG MAC(ハンバーガー)がHK\$12.30で販売されているのに対し、北京・上海・深圳ではRMB¥11.00で販売されています。HK\$12.30=RMB¥11.00 即ち、HK\$/RMB¥=0.89431すでにHK\$/RMB¥は、1.0を下回り、0.89台です。大陸の中国人が高い人民元を手にして香港に買い物に押し寄せる。その結果、香港の第三次産業がその恩恵に浴することとなります。大陸の人件費は割高となり、その人件費の上昇に耐えられない外資系企業は中国からの撤退を余儀なくさせられる可能性もあります。更には、中国大陸の一部の都市のタクシーや商店ではHK\$での支払いが拒否される事態が発生しています。しかし、よくよく考えれば、HK\$が中国内であったか中国の通貨のごとく流通していたのがむしろ異常なのであり、HK\$の国際的信認が低下した訳ではありません。確かに人民元を持っている中国人からすれば、HK\$は相対的に価値が低下する通貨であり、中国人がHK\$を保有すれば、為替差損の発生が見込まれるため、HK\$での支払を拒否する行動も理解出来ます。日本でも1998年の外為法改正までは、日本国内の企業間決済に外貨を使用することは禁止されていました(より正確には、日銀許可を要するが、日銀は許可することはなかった)。日本経済新聞2007年1月20日の「大機小機」には、元高・香港ドル安は中国本土から香港への旅行や買い物がしやすくなる半面、本土での不動産価値増大などを当て込んだ香港マネーの投資を刺激し、香港発のバブルを誘発しかねないと指摘しています。

王家衛 (Wong Kar Wai) 監督、梁朝偉 (Tony Leung)、鞏俐 (Gong Li)、木村拓哉、章子怡 (Zhang Ziyi) らが出演した映画「2046」において、「2046では何も変わらないと言われているがそこへ行って戻ってきた人が誰もいないので「不変」というのが本当か否かはわからない。」と語っています。1997年から一国二制度を50年間変えないと言った中国政府の「約束の期限」が2047年に終了する。その後の香港はどうなるのかわからないという暗示が映画「2046」にはあると思われました。
(NPO法人日本香港協会 監事五味修)

香港で生産を続けて20年

ウチヤ・サーモスタット株式会社
社長 打矢 正雄

香港日本人商工会議所の事務局の話によると、現在香港内で未だに生産活動を続けている日系企業は約4～5社位とのことであります。私共の子会社ウチヤ・ホンコン・リミテッド社は、(中国会社名：互持也香港有限公司) 香港にて保安部品であるサーモスタットの生産を開始して、早20年が経過しました。このUHK社(ウチヤ・ホンコン社)設立20周年を記念して祝賀会を催しました。祝賀会には地元香港の主要顧客や代理店、経營業務関係の各界のお客様、部材供給でご協力下さっている日本からのお客様、そしてUHK社の全従業員等、総勢250人が参加して中華料理と福引大会や各種エンターテイメントを楽しみました。



UHK社 荃湾工場内

私は、このUHK社を立ち上げる為に、1986年～1991年迄、約5年間香港で駐在生活を経験しました。私の人生の約半分は、日本からのウチヤ製品輸出時代を含めて香港のお客様や代理店の皆さんとの繋りで成り立っております。

現在香港に関する売り上げは全ウチヤの20%を超え、UHK社生産の80%以上は地元香港のお客様であります。

私は香港の人々に助けられていると感じています。自由で活力のある職場と生活の場、そして私の人生の中で豊かな時間と、素晴らしい友人を与えて下さった、香港そのものにも感謝しております。



香港工業獎 三度目の受賞



UHK社設立20周年記念パーティー

UHK社は今年で通算約8億個のサーモスタットを出荷し、ウチヤ・アイルランド社を含めたウチヤグループ全体としては、約20億個のサーモスタットという保安部品を全世界に向けて出荷することになります。私達ウチヤの経営理念の一つには、「製品とサービスを通じて社会に安全を供給する」と定めてあります。私達は、香港から、お客様を通して8億個もの安全を世界中に供給し、起こり得るかも知れぬ火災を未然に防止したと自負しております。又、全企業の内、25～30%位しか納税していないと言われる香港に於いて、約20年近くに亘り黒字を続けて納税を続けている事は、UHK社は地元香港社会に対しても十分に貢献しているものと思っております。

「継続は力なり、成功なり」と言われます。UHK社も、更に次の10年、そしてまたその次の20年と日本のウチヤと同じように50年の設立記念日を迎えられることを願うものであります。今回は20周年を記念して直径20m/mの金メダルをお世話になった方々に感謝の意を込めて贈呈しました。30周年の時には、直径30m/mの、そして50周年の時には50m/mの金メダルを配りたいと思っております。

(但し、金メダルの重量や厚味迄は保証しません。)



互持也香港有限公司 社会に貢献



FLYING DRAGON

2007年度冒頭を飾る総合イベントを開催

■ 香港返還10周年記念特別セミナー

去る3月5日、香港の海運王で前行政長官董健華氏の実弟に当たるOOIL(Orient Overseas International Ltd.; OOCL=Orient Overseas Container Line Ltd.の親会社)会長兼CEO董建成(CCトン)氏の来日に合わせ、日本香港協会では、日本貿易振興機構(ジェトロ)・香港貿易発展局と共催で、「中国本土と連携して発展する香港」と題して返還10周年記念の特別セミナーを、国際交流基金会議室において開催致しました。参加者は150名を越え、これまでにない盛況なセミナーとなりました。

セミナーでは、先ず、スピーカーとして、野村資本市場研究所のシニアフェローの関志雄氏が、返還後の香港の変遷と今後の見通しについてプレゼンテーションを行いました。関志雄氏は、日本における中国研究の第一人者であり、中国の香港化(香港の上海化・上海の香港化)や国際金融センターとしての香港の地位、香港ドルと人民元の今後の行方について、最新の情報を交えながらご講演をいただきました。

続いて、メインスピーカーである董建成氏より、海運・空運ハブとして大きく飛躍する香港の現状と将来についてプレゼンテーションをしていただきました。董建成氏は、香港特別行政区政府の香港経済サミットメンバーの一人で、海運・物流・インフラ専従研究グル

ープのリーダーとして曾蔭権(ドナルド・ツァン)行政長官を支える立場にあられます。注目すべきは、香港が一国二制度の原則下において、中国本土の第十一次五カ年計画綱領に呼応した体制を構築したことであり、今後香港は中国本土と連携・一体化して経済発展を担うことが明確になったと言えます。香港が、中国大陸への窓口機能にとどまらず、東南アジアのセンターとして物流ハブとしての地位を確立・維持するために、珠江デルタ全域に亘る鉄道・高速道路網・橋の整備に着手しているという話は、大変興味深いものがあると思われます。経済圏の規模での比較においても、珠江デルタ単独の人口42.9百万人は韓国に相当、広東省全体の人口91.9百万人はドイツ以上、汎珠江デルタ9+2(広東・福建・広西・海南・四川・雲南・江西・貴州・湖南+香港・マカオ)の人口452.5百万人はEU以上であり、この強力な経済圏を香港が牽引して行くに当たり、地理的優位性、ビジネスのインフラに加え、物流インフラが大きな役割を果たして行くことは間違いありません。

お二方の講演終了後には、活発な質疑応答があり、参加者の中国・香港に対する並々ならぬ関心の高さを感じました。当協会では、今後もジェトロや香港貿易発展局と連携しながら、会員の皆様に役立つ情報発信ができるセミナーを開催して参ります。



セミナー風景



質疑応答セッション



セミナーでの財前理事長挨拶



質問に答える董建成氏

■ 春節パーティ2007

本年度の春節パーティは、香港貿易発展局との共催、香港経済貿易代表部、香港政府観光局の後援のもと、3月5日東京全日空ホテルのプロミネンスにて16卓160名の規模で盛大に催されました。冒頭に財前理事長より、年度総会と理事会が無事終了したとの報告があり、特別ゲストとして同日午後のセミナー講師である董建成氏をご紹介いただきました。その後来賓を代表して、香港経済貿易代表部の祝彭婉儀首席代表、中華人民共和国駐日本国大使館経済商務処の郭強一等書記官からのご祝辞をいただき、日本香港協会会長で香港貿易発展局の古田茂美日本首席代表の音頭で乾杯を行いました。協会支部からも、中京の水野副会長、宮城の佐々木会長を始め、関西・山形からの参加もあり、各都道府県の東京事務所の面々や、物流、エンタテインメント、バイオテクノロジー等産業別団体・協会の代表の方々にもご参加いただき、豪華中華料理で旧正月の雰囲気をご満喫いただけたのではないかと思います。宴席の途中で、熊田副理事長より写真を交えながらの協会活動のご紹介もあり、今後は、地域を越えて、ますます協会活動の充実化を図っていくことが述べられました。



パーティーで挨拶する
財前理事長



協会活動を紹介する
熊田副理事長



中京・宮城支部の面々



来賓勢揃いで乾杯

平成19年度年次総会も無事終了

さる3月5日、赤坂にある東京全日空ホテル・ギャラクシーの間で開催。提議された全議案はいずれも満場一致の賛成で可決されました。本年度、特に注目に値するのは、第5号議案「役員人事」において、在日香港系機関・企業からの代表者を多数迎え入れたことです。これによって、当協会の目指す“日本香港間の友好・親善を深める”（定款第3条）方向に向けて更に力強い一歩を進めることが期待されます。以下、新任の理事各氏をご紹介いたします。（順不同・敬称略）

フェリックス陳（香港貿易発展局）・藤澤慶彦（サイカイオーバックス特別顧問）・加納国雄（香港政府観光局日本韓国地区局長）・波多江正孝（濱園取締役）・サイモン

卓（大昌貿易行代表取締役）・井上一幸（グッドジョブクリエイションズ社長）・ポール・アレン（HSBCグループ広報部長）・野島 威（トイカード社長）

尚、当日は総会に先立ち、香港海運業界の雄OOILの総帥・董建成会長をメインスピーカーとする「香港返還10周年記念特別セミナー」を日本貿易振興機構及び香港貿易発展局との共催で開き、会員・非会員併せて200名近い聴衆の参加がありました。さらに加えて、総会後は恒例の春節パーティも会場を同ホテル内のプロミネンスの間に移し、盛大に催されました。昼過ぎから夜まで、誠に充実した一日の概要ご報告です。

事務局

香港フォーラム見聞記～番外編～

会員 長野容子

香港返還10周年、そして600年に1度のおめでたい「黄金のブタ年」にあたる2007年。旧正月を香港で迎えた香港カルチャーライターの水田菜穂さん(※1)のお話では、異常気象の影響で気温は23度と汗ばむほどの陽気。大晦日に花市が開かれるピクトリア・パークは花々がいっせいに咲き乱れ、露店に並ぶ縁起物の牡丹(富貴)、桃(良縁)、金柑(金運)、水仙(家内安全)ともあいまって、安物の香水のような匂いにむせかえったようだ。

昨年11月末～、ベストシーズンに開かれる「香港フォーラム」に参加させていただく機会を得た。お歴々に交じっての初香港という若輩者ゆえ、ビジネスフォーラムを語るにはあまりにおこがましく、つれづれなるままの「番外編」ということでお許しいただきたい。

ランチョンにカクテルパーティー、本部支部交流会の豪華チャイニーズディナーの宴、マカオのポルトガル料理と「食」のお楽しみも続いた旅で驚かされたのは、ウェルカム・ディナー(鴻星海鮮酒家 ※2)で供された巨大な金だら入り「盆菜(Poon Choi)」であった。口に入れるまで正体がわからないほど、均一の醤油色に煮込まれた具材は、蓮根、白菜、タロ芋といった野菜から、きのこ、魚介、練り製品と何でもありのごった煮。乾貨(乾燥食材)特有の旨みから醸し出される贅沢な味と香りに、うかつにも何度もお代わりを所望してしまった。実はこの大鍋、コースのほんの序の口だったのだが・・・。

料理の説明書きによると、「盆菜」は客家の伝統料理で、モンゴル軍の侵攻を受けて新たな領土を香港へと広げた宋の皇帝一族に、村人たちがありとあらゆる食



盆菜後の記念写真

材を洗濯用の木の桶に入れて出したのがルーツとされている。今はお祝いの行事料理であり、ごった煮ではなく、鍋の底にまず野菜やきのこ類を、次に肉や乾燥魚介をのせ、一番上に鶏肉や新鮮なシーフードという三層構造であるらしい。また、最近、盆菜人気が高まってメニューに加える香港の高級レストランも増えているとも聞いたが、私はまだ日本でお目にかかったことはなかった。

去年あたりから、東京・渋谷に相次いでお目見えしている内モンゴル発祥「火鍋専門店」(※3)はマイブーム。クコやナツメ、リュウガンといった漢方・香辛料が浮かんだ激辛のマーラーと、透明なパイタンの2色スープが入ったおしどり鍋に、ラム肉や野菜をくぐらせていただく、しゃぶしゃぶスタイルだ。ラムのしゃぶしゃぶは北京の伝統料理で冬の風物詩。今回の旅でも、香港の達人である協会のお歴々にも、いろいろなお店に連れていっていただき、アジア鍋のさらなる奥深さに触れることができた。夜更けまで賑わっていた「香港大鍋」では打邊炉(ダービンロウ)を初体験。揚げた魚の皮、初めて見るキノコ類はじめ、具材もつけダレの材料の種類もハンパじゃなく、鍋の後は噂にきいていた「出前一丁」で締めくくり。記念にと持ち帰ったメニューの具材



イノセンターMac Ngai Tuen作品
写真の女性は憧れというヴィヴィアン・タム



香港大鍋



盆菜1



盆菜2

をすべて制覇できるのは、はて、いつの日だろうか。また、「翠園酒家」では飲茶を、北京料理の名店では鳩料理、茶餐廳のスイーツで舌鼓をうち、コンビニでは珍しいドリンクや調味料を買い込んでと食ざんまい。最近、「液体物の国際線機内持ち込み制限」のニュースを知って、もっと買い込んでおくべきだったと後悔している。

さて。スタイリッシュな王家衛映画から香港にハマった者の一人として、今回のフォーラムで楽しみにしていたのは、イノセンター(Inno Centre ※4)の視察であった。イノセンターは昨年、香港科技园と香港デザインセンターによって設立され、デザイナーと企業、政府などが一体となって香港製品のデザイン向上やブランドネームを浸透させる拠点の1つとなる。エキジビション会場にはアラン・チャン、ヴィヴィアン・タムをはじめとした著名デザイナーのworksを紹介する数多くのパネルが並び、若手の作品を展示した「Young Talent Show」も開催されて、課外授業とおぼしき学生たちの団体でも賑わっていた。個性が強そうなデザイナーたちが、一堂に会したパネルコーナーにみる団結力もさることながら、あらためて香港デザイナーたちのworksを見ていくと各自が幅広いデザイン、設計を手がけていることに驚かされる。フォーラムで一緒にデザインLUNA代表の小山圭子氏(中京日本香港協会)も、「ファッションから、商品パッケージ、雑貨、建築、植栽デザインにいたるまで、専門にとらわれず、何でもこなすのが香港クリエイター」とおっしゃっておられた。セントラルを歩いていてもしばしば、オリジナルの雑貨やインテリアを扱うセンスのいい店に出会う。西洋と



イノセンター若手デザイナー Wong Ming Yanのキャラクターグッズ



作者不明、作品はヴィヴィアンっぽい



イノセンター外観

東洋が融合したデザイン性、キッチュな雑貨やキャラクターといった“メイド・イン・ホンコン”から、今後も目が離せまい。

最後に私ごとで恐縮だが、5月放送予定の特番「クイズ検定試験」の制作に関わっている。世の中は検定ブーム。各地のご当地検定にはじまって、映画、時刻表、DIY、家庭料理と分野は多岐に渡り、新たな検定も続々と登場している。香港返還10周年を迎えるアニバーサリーの今年、「香港検定」を立ち上げることはできないか、熱烈香港ファンの1人として切望する次第である。

- ※1 水田菜穂さんのブログ Hong Kong Addict Blog
<http://hkaddict.blog26.fc2.com/>
- ※2 鴻星海鮮酒家(東京) <http://www.hungsing.co.jp/>
- ※3 中国火鍋専門店 小肥羊(東京) <http://www.hinabe.net/>
老湯火鍋房(東京) <http://www.laotang.jp/>
- ※4 Inno Center http://www.designsmart.gov.hk/eng/inno_centre.asp

珠海・マカオ投資環境紹介及び国際経済貿易交流会

珠海市は、1980年に経済特区として設立以来、香港とは珠江の対岸に位置し、マカオとは陸続きの優位性を十分に発揮し、対外経済は盛んに発展しています。一方、欧州の香りが漂うマカオは、450年の歴史を誇っており、1999年香港に続く中国特別行政区が設立されて以来、金融・サービス・娯楽産業などの分野で、空前の発展をしてきました。

珠海とマカオは資源・制度・産業・文化などの面で、それぞれの長所を取り入れ、短所を補う特徴があります。香港と両者を結ぶ「港珠澳大橋」の建設に伴い、両都市における発展は皆様に多大なチャンスを与えることとなります。珠海とマカオのそれぞれの優位性を活かすことは、投資者にとって賢明な

選択です。

今回交流会は、正にそのような時宜に合わせ、皆様方が現地事情をご理解される一助として、さらに一歩進んでサービス業・I/T業・港湾物流業・重化学工業などの分科会を通じて、より具体的な接触を図る絶好の機会であると確信しております。皆様方の奮ってのご参加を歓迎いたします。詳細に就きましては、下記までお問い合わせ願います。

珠海市駐日本代表事務所 楊 凱明

電話：03-3209-2624/080-5530-8868

FAX:03-3209-2624

メール：ykmzhsjp@yahoo.co.jp

ウェブ：http://zhuhai-macao.com.cn



FLYING DRAGON

KANSAI

支部 便り

関西日本香港協会 チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー2007

関西日本香港協会 理事・事務局長 戒田 真幸

恒例のチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーが平成19年2月26日にヒルトン大阪で開催され、140名の参加者が旧正月特別料理・アトラクション・豪華景品が沢山出るラッキードロー等を楽しみました。

パーティーは橋本守会長の開会の挨拶で始まり、総会で決った橋本守会長と藤峰晃副会長の退任と西田健一会長、木全千裕副会長の就任を発表され、西田新会長と木全新副会長が就任の挨拶をされました。橋本会長が10年間の長きに亘る会長在任期間中の支援と協力に対する感謝の言葉を述べられると、会場の参加者から盛大な拍手がなされ、強力なリーダーシップで協会の発展に貢献された橋本会長の退任を惜しむ声があちこちで聞かれました。続いて、日本香港協会会長、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏が歓迎の挨拶をされました。古田氏は挨拶の中で、橋本会長は香港の中国返還式典があった1997年に会長に就任し香港返還10周年記念の2007年の記念すべき年に退任されることになったと述べられ、会長就任の年に初代小野木会長が尽力された大阪で初めての香港ドラゴンボートレースを亡くなられた前会長の後を引き継いで見事に実現されたことや、第4期目に入った「チャイニーズ・マネジメント・アンド・マーケティング・スクール」を実現するなど、強力なリーダーシップで関西日本香港協会の発展に貢献された橋本会長を称えと共に、丸紅で永年香港と中国で仕事をされた現在も関西における中国ビジネスの第一人者として財界活動などで活躍中の西田新会長の新たなリーダーシップの下で協会の更なる発展への期待を表明されました。乾杯は、中華人民共和国駐大阪総領事館の副総領事利鄧偉氏が流暢な日本語で春節を祝う祝辞を述べられ、協会の今後の発展と参加者の健康と多幸を祈念して乾杯の音頭を取られ、全員元気にビールで乾杯しました。



ラッキードロー抽選会で見事香港旅行を得た上田様と西田新会長、飯坂キャセイ航空大阪支店長



退任される橋本元会長、藤峰元副会長、古田日本首席代表、テレンス大阪事務所長との記念撮影

広東料理の春節特別メニューは大変美味しく、各テーブルと会場全体が和気あいの友好ムードでお酒も沢山出て盛り上がり、名刺交換も活発に行われて会員同士の交流と懇親が深まりました。

会食の途中で、昨年11月に香港で開催された香港フォーラムで当協会が主催する「チャイニーズ・マネジメント・アンド・マーケティング・スクール」が各国香港ビジネス協会が競った事業コンテストで見事に“The Outstanding Initiative Award”のグランプリを受賞し2万香港ドルの賞金を獲得したことが報告され、舞台上で表彰式が再現されました。又、今年のアトラクションは、モンゴルから大阪大学文学部音楽学研究生として日本に留学中のホトランガ氏による二弦からなる擦弦楽器馬頭琴の演奏とモンゴルの民謡オルテンドー（長い歌）の歌を楽しみました。モンゴルでは「幸運」のことを「ヒーモリ」（風の馬）と呼び、馬頭琴を弾くとその家に幸運が訪れると言われており、お祝いの宴でよく弾かれるそうです。

最後は、恒例のラッキードローで大いに盛り上がりました。今年も理事企業や会員企業から沢山の景品が提供され、橋本会長がクジを引かれた特別賞のキャセイ航空とコンラッドホテル提供の香港往復ペアチケットと宿泊券はなんと橋本会長夫人に当たるという大ハプニングで会場は大騒ぎ、橋本夫人が辞退されてパーティー初参加の上田みづ穂さんが特別賞を獲得されました。最後に、退任されることになった藤峰晃副会長が閉会と退任の挨拶をされ、古田茂美氏と香港貿易発展局大阪事務所長テレンス・トー氏から退任される橋本会長と藤峰副会長に感謝の花束が贈呈されパーティーを終了しました。

関西支部

関西日本香港協会 文化部主催クリスマスパーティー

関西日本香港協会 理事・事務局長 戒田 真幸

文化部主催のクリスマスパーティーを平成18年12月13日にリーガロイヤルホテルのダイヤモンドルームで開催し、53名の参加者がクリスマス特別料理、ラッキードロー抽選会とプレゼント交換を楽しみました。ラッキードローの景品は、女性に人気の高い当ホテル内「メリッサ」の食品28本と特別賞としてキャセイパシフィック航空会社提供の香港行き往復ペア航空券でしたが、特別賞は初参加の(株)SHIMADAの嶋田一夫社長でした。嶋田社長は、当協会が主催する「チェーンズ・マネジメント・アンド・マーケティング・スクール」の



帰任前のご挨拶をするエディー 元 大阪事務所次長（現在は香港本部）



クリスマスプレゼント特賞を受賞した会員の嶋田氏：中。左：橋本元会長 右：飯坂 キャセイ航空大阪支店長

第2期受講生で、平成16年度の香港フォーラムに参加され、競馬の日にJockey・Clubで開催されたフェアウェルパーティーで見事馬券を当てられた強運の持ち主です。ラッキードローの司会を勤めた戒田事務局長からこの時のエピソードが紹介され、嶋田社長のように絶えず新しい事にチャレンジする人にしか“Beginner's Luck”は訪れないので、新年度にはどんどん新しい事にチャレンジして幸運を手に入れて下さい、とラッキードローを締めくくられました。全員輪になってクリスマスの音楽に合わせてプレゼント交換を行い、楽しいクリスマスパーティーを終りました。

フォーラム余談

多芸多才な香港協会の人々

湾仔

1. フォーラム開始前にラマ島周遊と中文大学へのハイキングを行った。ラマ島はトレッキング用に島中が整備され道も実に旨く配置されていた。驚いた変わり様は海鮮料理屋の店頭ワインが所狭しと並んでいたことだ。ワインブームなのか、世界でも高い香港のワイン税を逃れてこっそり密輸されたものか？

KCRの大学駅の手前に火炭駅がある。昔は農村だ。大きな野外の屋台店に入った。広東語以外通じるはずも無い。頼りは協会のTさんと店の生きのいいおばさんとの会話だ。これには驚いた。正に広東語そのもので、ついにそのおばさんはTさんに擦り寄って“あなた本当は香港ヤンでしょう”だと。

2. 長者の列：今回もスターフェリーは肅々と「長者・小人」の入り口から入った。タダだ。それにしても老人を長者とは良い表現だ。

オクトパスが益々便利になった。120HKドルで買えば

50ドルはdepositで離香時返してくれる。これで香港中乗り物に使える。コンビニなどでも通用する。個人名入りオクトパスにすると預金口座から自動引き落としになる。腕時計に組み込むとか首からぶら下げるタイプのももあるようだ。

3. キャセイの空港ラウンジでワンタンメンなど食べられるNoodle Houseをご存知と思う。オーダーすると手の平大のプラスチックの丸い文鎮の如きものを渡される。話に夢中になっても出来上がるとピカピカ光るかブルブル振動が始まる。最早並ぶ必要は無い。

4. 今回も毎日ご馳走攻めで十分堪能した。長者の一部にはドリアンを食べないと香港から帰れないとて、どこかでこっそりパクついていた人もいた。皆さんに伺うと過去に犬どころか色々変なものを食べたひとが多い。なかには普通の人に入らない九龍城の地下で変なものを食べたとか、ハクビシンまで食べたと言う人もいた。

そんな人達の横にマメな長者もいる。昔の女性達と面倒くさがらず実にマメに何人もの昔の女性と話し込んでいた長者もいた。正に協会は多芸多才の人の集まりだ。



FLYING DRAGON

CHUKYO

支部 便り

中京支部

2007年新春・総会・パーティーを顧みて

中京日本香港協会副会長 佐藤 亮一

2007年幕開けと共に、中京地区(名古屋)にも様々な話題が多い。名古屋駅前周辺の高層ビルが3月にオープン。

近々、ミッドランドスクエア(トヨタ)始め4棟の巨大ビルが軒を並べ、名古屋駅に向かい地下街で全通する。又、名古屋港も開業100周年を迎え、多彩な行事を控えているに伴い、南西地域は集客従い、それに伴う消費も増大化すると予想されるが、一方、活性化と共に反作用として、交通渋滞、ゴミ処理の問題も社会化現象として想定される。

しかし、ゴミ(可燃ゴミ)20%削減(24万トン)という市の目標も、ほぼ達成と見られるが、街全体の活性化が名古屋駅周辺に集中する危惧も一方にある。

そんな状況下、今回、「平成19年度中京日本香港協会の新春・総会・セミナー・懇親会」が2月28日(水)名古屋国際ホテルにて、古田香港貿易発展局日本首席代表、財前日本香港協会理事長をゲストに、又、セミナー講師にテレンス・トー香港貿易発展局大阪事務所長を迎えての「中国返還から10周年を迎える今年の香港情勢」を演題としたセミナーには、県・市の行政側からの出席もあり、盛大、有意義に催すことができたのは、事務局として香港貿易発展局の諸氏・関係者の方々に多大に感謝申し上げる次第です。各地区行政、企業担当者の方々の関心を集めた要因の一つとして、名古屋の将来、やもすると駅周辺の一極集中化が他地域を含め、全体の活性化の拡がりを片寄せないかとか、近隣地区が停滞するのではないかとの懸念も小企業の声にもあり、その打開策、将来の布石として、「大が小を兼ね、小が大と両立する香港事情」に現代の

港湾を核とした毎年連続第1位の経済自由度を誇る香港にヒントがあるのではないかと、そんな期待があっただけでなく、積極的な参加者の声も聞かれた。



○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

テーマはタイムリーであり、演者には感謝申し上げたい。

パーティーの方も80名近い参加者を得、趣向も恒例の「ライオンダンス」に始まり、今年は津軽三味線のグループ(昨年は和太鼓の会)による「じよから」を楽しんでいただき、名刺交換・懇談に伴い、最後の抽選会も各会員・理事・企業からの景品の賛助もあり、パーティー出席者全員にバラエティな礼物として、プレゼントでき、香港往復ペアチケット(キャセイパシフィック利用)贈呈で盛り上り、無事終了を迎えた。

今回を念頭に又、来年の総会時、何を目玉にするかとのアイディア挑戦も文化部中心に会話がされている。

かくの如く全てが順風満帆のごときに耳目集めそうですが、一方に反省材料として、会員数・出席者数も、東京・大阪の規模に比し半分といった現状で、特に会員数の伸びが停滞していることも事実。ホームページ、口コミの宣伝も理事全員で強化していることも難しい状況下にあります。

全国的な組織体としての拡がりのある貿易発展局の軌道に乗り、各地区人事交流も含めた会員サービスとしての旅行会も、又、10年を迎えた香港の活力も見聞する企画も打出し、市・県・マスコミにもPRしてゆかねばと年頭に際し、総会後の所感として考えねばならない。今後共、香港貿易発展局並びに本部・各支部には温かい支援の程、御願います。



パーティーの余興、津軽三味線グループによる熱演ぶり

FUKUOKA

支部便り

福岡支部

最近の福岡支部活動状況報告

日本香港協会福岡支部 理事 辰元 登

昨年11月28・29日に開催の第7回香港フォーラムには、当福岡支部は9名の参加者を派遣することが出来まして大変嬉しく思っています。今回開催の香港フォーラムは2000年に設立されて以来、参加者も初めの138名から逐次増加の一途を辿り、05年には403名とその実績は逐次向上している事は何よりも嬉しい限りであります。

私共の日本香港協会の本部支部会議は従来、本部、支部が持ち回りにて開催致していましたが、日本香港協会から、当初は東京本部の役員の方のみのフォーラム出席から、本部を含め各支部からの出席者が逐次増加して参りましたので、従来日本で開催されておりました本部支部会議は、香港フォーラム開催の地香港で開催されることとなりました。併せて次回の本部支部会議の開催は私共の福岡支部が、順番として御世話を担当する事になりました。今年の第8回香港フォーラム開催の日時は2007年10月8、9日となりました事は、皆様は既にご承知の事と存じます。何卒、皆様方のご協力を宜しくお願い申し上げます。

福岡支部は、第7回香港フォーラム参加報告会や、又忘年、新年会を兼ねて、昨年12月11日に会合を計画致しましたが、残念ながら年末のあわただしい折から、参加希望者は少なく、残念ながら取りやめざるをえない状況でありました。

今年に到り、去る1月27日理事会を開催いたし香港フォーラム報告と、今年度の本部支部会議の開催の御世話は当福岡支部が当番となりましたので、今年は更に多くの参加者を求めるため各人のご意見を求めましたが、夫々が自由活発なご意見はありましたが、結論的にまとまった案ではなく、次回に結論を求めることにな



第7回香港フォーラム開催挨拶

りました。

更に、今回の理事会で討議されました点は、福岡は小さくて、狭い土地ではありますが、日本のどの地区に比べても韓国、北朝鮮、中国などの諸国や、又、台北、上海、北京などの大都市が近くに存在し、古より相互の文化交流の中心的役割りを果たして、今日に到っています事は衆人等しく認めるところであります。

このような事から、東南アジア諸国をはじめアジア諸国の多くの外国諸機関や貿易振興の機関が多数存在しています。

このような恵まれた経済環境に加えまして、私共の日本香港協会福岡支部の並田正一会長は社団法人福岡貿易会会長としても御活躍されていらっしゃいます。私共の香港協会福岡支部といたしましては、今後におきましては、このような対外経済貿易振興機関と相互に提携し単なる情報交換にとどまるのみならず、相互経済貿易の発展に寄与致したいものと思っております。



第三回 福岡支部理事会出席者



FLYING DRAGON

HOKKAIDO

支部 便り

北海道支部

「香港のつどい2007」開催

北海道日本香港協会 事務局

2月5日(月)に北海道日本香港協会、香港政府観光局および香港貿易発展局の主催により「香港のつどい2007」を札幌グランドホテルで開催しました。香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部、北海道、札幌市、札幌観光協会、北洋銀行にご後援頂き、香港が大好きな北海道の方123名にご参加頂きました。

冒頭に主催者を代表しての当協会の高向会長の挨拶、そして駐東京経済貿易代表部のジェニー・チョック首席代表に挨拶を頂きました。香港貿易発展局の古田日本首席代表の乾杯により会が始まりました。

会場内は香港政府観光局やキャセイパシフィック航空会社によるディスプレイが行われ、香港気分を盛り上げていただきました。北海道の新鮮な食材を用いた総料理長自慢の料理とともに、(株)ホリさまより2年連続で北海道ギフトナンバーワンに輝いた「夕張メロンピュアゼリー」と「とうきびチョコ」の試食コーナーも設置されました。

会食と歓談がひと段落すると男性ボーカルカルテット「ダンディ・フォー」がステージに登場、楽しい歌声で会場が包まれました。「ダンディー・フォー」は北海道日本香港協会の安斎副会長がメンバーをつとめるコーラスグループで今や「香港のつどい」には欠かせない存在です。

ミス香港のスキ・チョイさんが会場を巡り会場が一層華やいだ雰囲気となる中で、皆さん期待のラッキードロ大抽選会が行われました。今年一番の目玉賞品は香港往復ペアチケットと3泊分のホテル宿泊券セットです。航空券はキャセイパシフィック航空さま、宿泊券は香港政府観光局さまよりご提供いただいたものです。その他、ANAさま、JALさま、香港貿易発展局さまや(株)ホリさま、そして北洋銀



会場風景

行などの企業の皆さまから多くの賞品をご提供いただきました。

特賞当選番号が発表され、羨望の眼差しの中キャセイパシフィック航空の後藤札幌営業支店長さまより特賞が授与されました。

香港のつどいは例年、「さっぽろ雪まつり」に合わせて香港が大好きな北海道民が自由に参加する楽しいパーティです。

多くの企業や団体の方に支えられて今年も無事に終わることができました。来年も多くの方にご参加いただけることを願ってやみません。

最後に嬉しいニュースをお知らせします。さっぽろ雪まつりで行われた国際雪像コンクールで香港チームの「龍の舞」が見事に優勝の栄誉に輝きました。暖冬の影響で気温が例年より高く、雪像作りは大変だったと思います。本当におめでとうございます。



北海道日本香港協会商向会長の開催挨拶



東京経済貿易代表部ジェニー・チョック首席代表



(株)ホーリ提供の北海道名産品コーナー

MIYAGI

支部便り

宮城支部

活潑な立上りが期待される東北の拠点

宮城日本香港協会は、平成18年11月17日発足しました。以後、約3か月を経ようとしています。これまで、ボランティアで仕事の合間を活用し、手作りで会の運営を進めてきました。役員の弛まない努力もあり会員数も100人を超える規模となり、毎月の理事会開催が活動の軸となり様々な活動に取り組んできました。とくに、会員数の拡大目標500人を達成するために、主な活動としてホームページの開設をこの4月から予定しており、会員特典を設け着実に会員募集に取り組んでいくこととしています。又、昨年12月には香港出身のアグネス・チャンさんを招き、『旅行文化講演会』を宮城県はじめ、香港政府観光局と一緒に後援してまいりました。香港の魅力や世界を舞台に活躍されている貴重なお話を伺うことができました。本年に入り女性部会(呼称「ウイング」)も立ち上げお茶会や料理教室に取り組んでいます。会員には、ビジネスだけではなく、一般の主婦層の方々にも入って頂き女性の力を結実し有意義な会にと考えております。

又、今後の計画として、5月11日に会の設立を祝い、セミナー&祝賀会を、10月には第一回香港親善訪問団の派遣を予定しております。宮城県は政令都市仙台を抱え、人口236万人を有しており、東北の中心的拠点として、産業、文化、人材育成等あらゆる面で規模のメリットを活かし、将来の東北発展の牽引力としてその成長が期待されております。そうした中で、私たちは香港との様々な交流を通じ、香港との定期便復活や産業活動にとどまらず地域振興、地域の活性化に少しでも貢献できるよう望んでおります。当協会の活動はこれからが大切な段階に入り、会員・役員一体となって前進していこうと思っております。

さて、出来立ての本協会の活動の一端を記させて頂きましたが、協会を取り巻く最近の動きについても二点紹介させて頂きます。一つは宮城県です。宮城県は、躍進する東アジア経済に着目し、その経済成長の中心である中国との経済交流を今後促進することを掲げています。これまで「東北フェアin上海」の開催や「大連商談会」の開催等積極的に取り組んでいます。又中国華南地域へのゲートウェイであり成熟した市場である香港、安定した経済成長を続ける台湾との経済交流を実現するため当初予算に事業費を計上しました。香港との商談会開催や香港バイヤーの招聘等を通じ、本県の強みである食材産業等の一層の進展を図る



村井宮城県知事を表敬訪問の祝首席代表

取り組みです。協会としても成功に向け一定の役割を果たせないか、今後の活動の中で検討し、協会として出来る支援を考え香港との交流活動がさらに



開会に当り挨拶される祝首席代表

促進されることを期待したいと思っています。もう一つは、協会会員事業者の活動についてです。伺った内容を紹介しますと具体的には、香港と宮城そして東北全体を対象とした観光交流と経済ビジネスの戦略から、インターネットテレビ(www.cat-vnet.tv)の立ち上げを図ると言うものです。確かに香港と日本東北そして宮城の「今」を結ぶ媒体が欠落していることは、今後の香港等との交流を図る上で切実な課題といえます。このような背景から事業者は今年5月に立ち上げるそうです。内容は、インターネットのトップページを開くと旅チャンネル、暮らしのチャンネルが現れます。旅チャンネルの一番目は、香港に関する情報が全て収まっている内容で、関係者はこの情報収集に向け、香港宮城県人会の協力を得ながらこの三月と四月に香港取材を敢行するとのことです。こうした旅やビジネスに関する情報媒体の取り組みはインターネットだけではなく、現在東北の各ケーブルテレビ等でも放送する計画を立てているようです。こうした面での情報提供が急速に進みつつあることは、輝く東北の新時代を創る上で喜ばしいことと歓迎するものです。香港観光客に不自由をさせないフレキシブルな「ツアーナビ」等の提供はもう目前に迫っているようです。より良き情報媒体として県民の皆さんに定着していくことを期待したいと思っています。

最後に、本年2月に仙台で初めて香港経済貿易代表部主催による、地元経済人や学術関係者等を招いてとの交流会が開催されました。今後もこうした活動等が行われ当協会の設立が相互交流に一定の役割を果たし、東アジアの玄関口香港との交流活動が一層促進し永続的に進展することを切に望んでいます。



旅行文化講演会でアグネス・チャンさんを囲んで



FLYING DRAGON

2007/08 JAPAN 香港貿易發展局主催・参加 展示会及びミッション

2007年	日程	イベント名	会場	展示品目/分野
4月	26	福岡セミナー/JHKS福岡支部総会	福岡	食品
5月	7-9	ビューティーワールド ジャパン	東京	美容関連
	11	仙台セミナー/JHKS宮城支部設立パーティー	宮城/仙台	-
	17-19	第11回神戸国際宝飾展	神戸	ジュエリー関連全般
	22-25	NEW環境展 東京	東京	環境関連
	29-6/1	香港玩具ビジネス商談会(大阪・東京)	大阪/東京	玩具
	31	日本・香港経済合同委員会/特別シンポジウム(下記詳細)	東京	-
6月	6-7	東京ファッショングッツトレード・ショー	東京	ファッション関連
	13-15	福岡ギフト・ショー	福岡	ギフト
	20-22	バイオ・エキスポ・ジャパン	東京	バイオテクノロジー
	21-22	バイオテクノロジー・セミナー	東京/札幌	バイオテクノロジー
	27	香港返還10周年記念レセプション	東京	-
	28-29	東京おもちゃショー	東京	玩具
		漢方薬産業セミナー	大阪	漢方薬関連
7月	2-3/5-6	香港毛皮展示会	東京/大阪	毛皮製品
	18-20	香港ファッション・フェア at IFF	東京	ファッション関連
8月	16-20	医・食産業ミッション	香港	食品・薬品
	29-31	ジャパンジュエリー・フェア2007/ジュエリー・セミナー	東京	ジュエリー
9月	4-7	東京インターナショナルギフトショー(秋)/ギフト・セミナー	東京	ギフト関連
	6-8	NEW環境展 大阪/環境セミナー	大阪	環境関連
	20-23	東京ゲームショー	千葉	ゲーム関連
	26-28	大阪インターナショナルギフトショー(秋)/ギフト・セミナー	大阪	ギフト関連
		珠江デルタ自動車部品・電子産業セミナー	東京/大阪	-
		テクノロジー・トランスファー・セミナー	東京	技術関連
		香港返還10周年記念セミナー	東京/名古屋	-
	14-17	世界華商大会	神戸/大阪	-
10月	2-6	CEATEC JAPAN 2007	千葉	エレクトロニクス関連
	8-9	香港フォーラム・ミッション	香港	-
	10-12	IOFT2007	東京	眼鏡関連
	22-24	TIFFCOM(アジア・パシフィック・エンタテインメント・マーケット)	東京	映画・コンテンツビジネス
	27-30	Eco Expo Asia 環境ミッション	香港	環境関連
		香港創造コンテンツ産業セミナー	東京	コンテンツ関連
	31-11/2	ライセンスング・アジア2007/ライセンスング・セミナー	東京	ライセンス関連
		Asia Tech Fair	北九州	技術関連
		デジタルコンテンツショーケース in 関西	大阪	映画・コンテンツビジネス
11月	22-25	IFFT 東京国際家具見本市	東京	家具
		駐日香港政府・香港貿易發展局・政府観光局合同香港セミナー	東京	-
		日中経済討論会	大阪	-
12月		ワールドSMEエキスポ/IDE デザイン・ミッション	香港	サービス関連
2008年				
1月		インターネットコン・ジャパン	東京	電子部品
		国際宝飾展 IJT2008	東京	ジュエリー関連
2月		東京インターナショナルギフトショー(春)	東京	ギフト関連
		トータル・チャイナ・ソリューション・フェア	大阪	サービス関連
		テクノロジー・トランスファー・セミナー	大阪	技術関連

香港特別行政区政府設立10周年記念特別シンポジウムのご案内 「香港をもっと知る：潜在競争力世界一の秘密を探るには！」

華南重化学工業経済圏の勃興、中国のアセアンFTA時代突入、大中華圏経済といった構造変革の中で、変貌し進化する香港を理解し、香港の次の10年を如何に展望するかによって、香港を最大限に活用し、中国を始めとするアジアに生み出されるグローバルビジネスを手中にできます。

日本・香港経済委員会ならびに香港・日本経済委員会では、「中華圏経済の将来:変わる香港の役割」をテーマとしたシンポジウムを開催します。是非お問い合わせください。

■**テーマ**：「中華圏経済の将来：進化する香港の役割」

■**日時**：2007年5月31日(木)午後1時半より5時まで(予定)

■**会場**：経団連会館11階 国際会議場

■**講師**：香港特別行政区政府 工商科技局局长 王 永平 (予定)

香港・日本経済委員会委員長 馮 國經
日本貿易振興機構経済分析部主任調査研究員 木内 惠
野村資本市場研究所 シニアフェロー 関 志雄
富士通総研経済研究所主任研究員 朱 炎

※講師は変更の場合もございますのでご了承ください。

香港・日本経済委員会(Hong Kong/Japan Business Cooperation Committee)

香港・日本経済委員会は、香港と日本の貿易、投資、その他の経済協力促進を目的に1979年に組織された委員会、香港貿易發展局が事務局を務めている。また日本では、日本・香港経済委員会と称し、日本経済団体連合会が事務局を務める。



九龍城で見つけた潮州料理の百花繚乱。

会員 小柳敬子

みなさん、潮州料理をご存じでしょうか。広東省の東部、刺繍で有名な汕頭(スウトウ)を中心とする潮州地方一帯で広く日常食されて来ました。香港の主流料理が広州料理であることはご存じの通りですが、この潮州料理も香港の食生活にすっかり馴染んでいます。

今回は九龍城にある潮州料理の名店『創發潮州飯店』をご紹介します。

素人的香港食いだおれ事情 第四回



功夫茶食前と食後には必ずこの功夫茶が出ます。一人あたりおちよこサイズで2杯。健胃と消化を助けます。



きんちやく料理／野菜と鶏の入った香港版きんちやく。美味しいスープもたっぷり出てきます。

潮州料理の特徴は大きくいえば海鮮類の料理が豊富であることです。この料理店でも大きな生簍があり、新鮮な魚介類が豊富に並んでいます。味の系統はもちろん広東料理なのですが、やや塩味が効いた料理類が多いといえるでしょう。また魚類や団子類などは、早く食べられるように、事前に半調理状態にしたものが多く、その種類の多さといったら筆舌に尽くせません。よってメニューも、いわゆるブック型のメニューはなく、店内の壁に定番料理と季節料理を書いたものがぎっしり張ってあります。そのため料理の発注は、お店の人と一緒に半調理品を見に行き決めて、季節のオススメ料理を聞いたり、生簍の何かを食べたければ、値段と調理法の種類を聞いて、選んで発注するというスタイルになります。半調理品の山を見に行くと、完全に「あれもこれも食べたい」と頭の中がいっぱいになってしまうのがこの店の楽しさです。食前と食後には潮州料理

独特のお茶も登場し、健胃消化を助けてくれます。では、あとは写真と解説でお楽しみください(笑)。

九龍城はなぜか潮州料理店が多いです。車の修理工場や板金ほか、肉体労働系の会社が多いので、汗を流した後は塩味が効いた料理が美味しいからという説もあるくらいです。また仕事が忙しいので、半調理状態にしておけば、早くご飯が食べられるというメリットがあるとも言われています。

あと九龍城はちょっと遠いと思われた方に朗報です。チェクラップコック国際空港の出発ゲート内のフードコートにも潮州料理の名店が出店していますので、ぜひお試しを。他のフードコートと異なり、空港関係者の利用が多いのが特徴です(笑)。安くてボリュームいっぱい。では今回もお付き合い多謝&bye bye!



生簍／この通り、海鮮類がぎっしり。私はこの店に通い出して10年以上になります。今回はこの大巻き貝の料理に挑戦しました。



大巻き貝料理／中身をスライスしてバターと塩で軽く炒めるのが定番だそう。びっくり。野菜はガイランの茎の部分のみを使うという凝りようです。身は柔らかく少しくりこりして大変美味しい。



FLYING DRAGON



店内メニュー／ここから選んでいきます。あまり広東語ができなくても、なんとかなるものです(笑)。



半調理料理の数々/調理場の横のところせましと鎮座しています。さきほどのきんちゃく料理も並んでいます。



『創發潮州飯店』店頭には、いけすと、あとはカニや鴨も吊してあります。

2006年度香港工商業界の生産性及び品質の両大賞を獲得！

当協会理事の原田光夫氏が社長を勤められるWKKジャパン(株)の親会社である王氏港建科技有限公司がその栄に浴しました。同社は創設以来20年、常に改善と進歩に心がけ、各種の国際規格ISO9001・QS9000・TL9000・ISO13485等の取得を着実に重ねながら、努力を怠らなかつた成果に他なりません。以前、顧客達は発注品の出荷前に立会い検査を要求するのが当たり前でした。今や、彼らは同社の製品に対して100%の信頼をおいており、無条件での出荷を受け入れるに到っています。その秘訣は何処にあるのでしょうか？

同社のCEO王忠桐氏はいみじくも申しておられます。“品質管理の要諦は、優秀な従業員の定着にある。まず、彼らに十分な訓練を与え、同時に良好な条件で待遇すること、これこそが品質の維持に繋がる”。



東莞にあるWKKの最新鋭工場

飛龍 No.55 2007年4月発行 (禁無断転載)

日本香港協会 広報委員会

香港貿易發展局東京事務所内

〒102-0083

東京都千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階

電話 (03) 5210-5870 FAX (03) 5210-5860

関西日本香港協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13

大阪国際ビルディング10階 香港貿易發展局内

電話 (06) 4705-7030

中京日本香港協会

香港貿易發展局大阪事務所気付

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13

大阪国際ビルディング10階 香港貿易發展局内

電話 (06) 4705-7030

北九州支部

〒802-8522 北九州市小倉北区紺屋町13-1

北九州商工会議所 国際部内

電話 (093) 541-0181

福岡支部

〒810-0013 福岡市中央区大宮2-3-7

協同組合福岡情報ビジネス内

電話 (092) 534-6331

山形日本香港協会

〒990-2432 山形市荒橋町1丁目14番21号

(株)日本不動産コンサルティング内

電話 (023) 633-2110

北海道日本香港協会

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-11 北洋銀行国際部内

電話 (011) 261-4288 FAX (011) 232-6921

宮城日本香港協会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-7-23

明治安田生命仙台一番町ビル3階

(株)JTB東北 交流文化事業部内

電話 (022) 212-5552 FAX (022) 212-5556

URL <http://www.jhks.gr.jp>